トヨタ自動車特集

トヨタの海外展開をサポート

国内で自動車生産台数の今後の伸びが期待にしにくく〝限量経営〟を迫られる中、部品メーカー各社が持続的成長の軸に据えるのが海外だ。主力市場である北米は堅調に回復している。新興国も足元では成長鈍化の兆しも出ているが、中長期では間違いなく発展する地域だ。各社とも海外での生産や開発などの体制を一段と強化する。ただ海外部品メーカーとの競争は激しさを増すほか急激な需要変動も起こりうる。海外での一層の競争力強化や柔軟な展開も求められている。

戦略車に貢献

部品生産を現地化

「今後の最大の懸念材料は新興国の動向。先行きが非常に分かりづらい」（加藤宣明デンソー社長）。急成長を遂げてきた新興国に少しかげりの兆候が出てきた。すでにインドやインドネシア、タイ、中国、ブラジルなどで成長鈍化の兆しが見られる。

多くの部品メーカーが各国で生産体制を増強してきただけに今後の動向を注視している。ただ各国とも市場が成長基調にあることは変わらず、部品メーカーが持続的に成長を続けるには欠かせない地域でもある。

トヨタ自動車の新興国戦略を支える「IMV」シリーズ。2015年をめどに全面改良を控えるが、そこで部品生産の現地化においてトヨタへの貢献度をさらに高めようとしているのが豊田自動織機。インドで次期IMV向けディーゼルエンジンの生産を始める計画だ。以前より「力を蓄えてトヨタ向けエンジンで手がける領域を広げたい」（大西朗社長）としており同エンジンの海外生産も、その取り組みの成果の一つとなる。

豊田自動織機はすでにIMV向けディーゼルエンジンの開発や生産で実績を持つ。生産は国内のみだったが次期モデルではインドで生産し、現地生産化によるコストダウンで力を発揮する考えだ。

アイシン精機はトヨタのシェアが高いインドネシアで15万平方㍍の土地を取得。アドヴィックス（愛知県刈谷市）などグループとの共同活用を検討中だ。

変化への対応

経済情勢で柔軟に

12年秋に中国で起こった日本車不買運動。一時期落ち込んだ部品需要も、現在はようやく以前の水準近くまで回復してきた。部品メーカーにとっては「中国に限らず、いろいろな国でビジネスをするには、なんらかのリスクが出てくる可能性があるという前提でやっていく必要がある」（藤森文雄アイシン精機社長）と新興国市場のリスクをあらためて実感した出来事だった。長期的には拡大基調の市場でも短期的には急激な需要変動がおこりうる。部品メーカーにはこうした変化への対応力が求められる。

減速気味の新興国だが成長基調にはある（インドネシア）

プレス部品メーカーの豊田鉄工（愛知県豊田市）は中国の工場に導入する予定で発注した大型プレス機をカナダの工場に振り向ける。中国での不買運動や経済成長鈍化により先行きが不透明になったことから、急きょ導入先を変更した。カナダではトヨタ向けに受注が拡大し供給能力の増強が必要となっている。

大型プレス機は発注してから据え付けまで「1年半以上かかる」（三宅英臣会長）ため、その間に今回のように環境が大きく変わる可能性もある。豊田鉄工は変化に柔軟に対応しつつ海外事業を拡大する方針だ。

東南アジアでは労務費が上昇傾向にあるほか、人手不足状態も続いている。現地で事業拡大しようとしている部品メーカーにとっては頭の痛い問題だ。トヨタ紡織はこうした状況を受けタイからラオスに生産を一部移管することを決めた。

ラオスに同社初の工場を建設し、タイのシート工場で手がけていたカバー縫製工程を移管する。タイでは人手の確保が難しくなっているが、ラオスは人件費が安く人も集めやすい。ラオスとタイは言葉や文化が似ておりタイから管理もしやすいと判断した。

堅調な北米で

増産体制作り急ぐ

北米市場は堅調に回復している。トヨタは米国での13年の新車販売台数の目標を従来目標から5万台引き上げ、前年比8・0％増となる225万台に設定した。米国市場の全体需要の予想についても従来予想から20万台引き上げ、1550万台（前年比7・0％増）とした。今後についても「数年は好調が続く」（ジェームズ・レンツ専務役員）見通しだ。部品メーカーも北米での供給量が増えており生産体制を増強する動きも出ている。

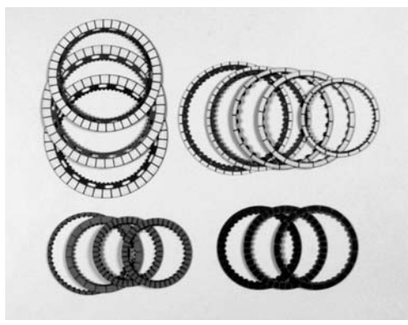
デンソーはメキシコ・グアナファト州に建設中の自動車部品の新工場に5140万ドルを追加投資する。デンソーにとって同国3カ所目となる新工場では10月にカーエアコン、14年1月にラジエーターなどの生産を始める計画。そこに追加投資によってオルタネーターの生産を14年10月に加える。

豊田合成は米国とカナダで相次いで新工場を稼働したのに続き、メキシコに生産拠点を新設する。米国ではミシガン州に燃料用樹脂チューブの新工場を、カナダではオンタリオ州に内外装部品の新工場を、それぞれ稼働した。トヨタなどからの受注拡大に対応する。

メキシコでは15年にゴムホースの生産を開始。コスト競争力を強化するために米ケンタッキー州の工場から生産の一部を移管するとともに、今後の北米での一層の供給増に備える狙いもある。

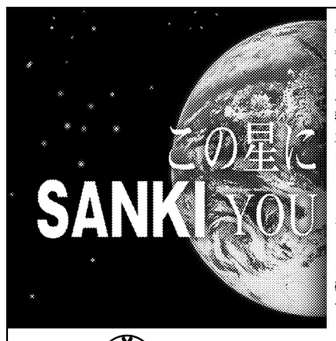
アイシン化工（同豊田市）は米インディアナ州の工場で自動変速機（AT）用湿式摩擦材の生産能力を33％増の約120万枚に引き上げた。トヨタが米国のユニット部品工場でATの増強を進めていることに対応する。

デンソーはメキシコ新工場に追加投資（完成予想図）



アイシン化工が米国で増産するAT用湿式摩擦材

JX　エネルギー・資源・素材のXを。
JX日鉱日石エネルギー株式会社
ENEOS
中部支店
支店長　中葉　伸二郎
〒450-6214　名古屋市中村区名駅四丁目7番1号
☎052-746-5065　ミッドランドスクエア



いますぐできること
三機は始めています。
省資源・
省エネ・そして
再利用をいつも心に、
人々のさまざまな快適
環境を創り続けてきた
三機工業の精神、総合エン
ジニアリング。その精神は、
このかけがえのない生命体
と響き合える、循環型社会
を創るための新しいクオ
リティとして、多くの新
しい技術に発展し、
確実に実を結ん
でいます。
三機工業株式会社
〒104-8506 東京都中央区明石町8-1
www.sanki.co.jp

SUTAI
含浸液回収総合システム
SKISS
しっかり分離　しっかり回収
含浸液と洗浄水を回収して
再利用することで環境負荷を大きく低減できます。
株式会社 スタイ
本社・工場　〒443-0036 愛知県蒲郡市浜町67番16　TEL.(0533)68-1366　FAX.(0533)68-1367
富山工場　〒934-0038 富山県射水市津幡江738-1　TEL.(0766)84-9570　FAX.(0766)84-9320
蒲郡三谷工場・蒲郡流通センター　E-mail：info@sutai.jp
http://www.sutai.jp

人がいる。イビデンがいる。